

「幼虫、ちっちゃ！(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今時の子どもたちは、語尾の「い」を省略したことばをよく口にする。たとえばこんな具合だ。

子ども語	本来の言い方	標準語
さーむっ！	さむい。	寒い
でかっ！	でかい。	大きい。
あっつ！	あつい。	熱い。暑い。
ちっちゃ！	ちっちゃい。	小さい。

今回の主役はこの「ちっちゃ！」である。何が「ちっちゃ！」なのかというと、アゲハの幼虫が「ちっちゃ！」なのである。



先日、3年生の男の子が、小さな箱を持ってきた。「先生、これあげます！」何だろう？と思って開けてみると、小さなアゲハの幼虫が入っていた。



葉が少ししおれていたもので、校庭の隅にあるミカンの樹から新鮮な葉を採ってきて、与えてみた。



こんなに小さな幼虫なのに、さっそく葉を食べ始めた。こういう一瞬は、できるだけ多くの子どもたちに見せたい。私は適当な大きさの箱に移し、簡単な説明文をつけて、3年生の教室に置くことにした。



教室に普段ないものがあると、子どもたちはすぐに気づくものである。幼虫の箱は、あっという間に子どもたち囲まれてしまった。翌朝の絵だより(絵日記)にその驚きが書かれていた。

田中先生へ 「ちっちゃいヨウチュウ」

「きのう、だれかがもってきたあげはのヨウチュウを、先生がはこに入れて、えさのは(餌の葉)をあげて、見せてくれました。わたしは、ちっちゃ!と思いました。ヨウチュウっていうのはみどり色とかで、もっと大きいと思ってました。黒くて、とげとかあるけど、ちょっとかわいいと思いました。」